

地域情報

自然を楽しみ、自然との共存を考える 大滝的自然活動 ～大滝冒険倶楽部～



支笏洞爺国立公園の中央部に位置する大滝村。大滝村を訪れたことのない人でも、観光地への中継地点として、国道276号沿いにある北欧風の世界最大級ログハウスが目印の道の駅「フォーレスト276」は知っている人が多いのではないだろうか。また、北湯沢温泉郷がある温泉町としても有名である。だが、それ以外にも大滝村には、豊かな森林や清流など、すばらしい自然、アウトドアフィールドとしての恵まれた環境がある。また、本年4月には大滝村ケーブルテレビ

が開局、「新世代地域ケーブルテレビ」の先進地として注目されている。

その大滝村の自然に魅せられ、自然を楽しみながら、自然との共存を考える機会を創ろうと「大滝的自然活動構想」の実現に奔走する、大滝冒険倶楽部の吉居代表にお話をうかがった。

大滝村は

北海道の道央地域南西部に位置する人口1,600人余りの山あいの村である。東側は村のシンボルともいえる標高1,322mのホロホロ山を境に白老町、美笛峠を越えて千歳市、西に洞爺村、南には長流川をへだてて壮瞥町、北部は北海道の中心都市札幌に隣接している。

札幌から支笏湖を経由して洞爺湖へ向うルート国道276号線沿いにある北欧風のログハウス「フォーレスト276」は、全長200mの世界最大級のログハウスで、年間100万人以上の人々が訪れる。また、建物の奥にはピアノの自動演奏が流れる、大理石づくりの総工費1億円のトイレがあることでも有名である。

大滝村は村名が示すように溪流と滝のふるさとであり、三階の層を成して流れ落ちる「三階滝」は代表的な景観である。1901（明治34）年には豊富な温泉を有する北湯沢温泉場

が開かれ、村内にはその温泉を活用した多くの福祉施設が並び、健康づくりや長期滞在型の施設も充実している。

大滝村は、子どもからお年寄りまで、健康な人も障害のある人もすべて大滝村民として尊重される「ノーマライゼーション」の考えを基本として、恵まれた自然や北湯沢温泉郷など、地域資源を生かし、農林業、観光、福祉を三本柱として、誰もが住みたくなる村づくりを目指している。

大滝冒険倶楽部の設立と大滝的自然活動構想

大滝冒険倶楽部代表の吉居大輔さんは東京都出身で、'96年に伊達市に移住、'03年に着手された大滝村の「新世代地域ケーブルテレビ事業」に携わり、大滝村に通ううちに、その人と自然に魅せられ、村づくりに関わるようになった。

その活動の中で村民との交流も深まり、「地元の人でしか知り得なかった本当の自然を教えられ、また、それに感動する僕らを見ているうちに、しだいに村民たちも地元の良さを再発見することになった」という。そして、「もっとたくさんの人に大滝らしい自然体験をしてもらい、村の魅力ある資源に付加価値をつけて、これを村外へアピールしていけば大滝村の活性化になる」と考えたそうです。

'03年3月に吉居さんは、大滝村の自然に魅せられた人々と、大滝村の資産である自然の恩恵を改めて認識し、大滝村とその周辺を自然を次世代に遺すために、啓蒙・保全の活動をすることで、ひとりでも多くの人に自然の大切さに気づいてもらい、さらには豊かなまちづくりにつなげることを目的として「大滝村冒険倶楽部」を設立。そしてその具体的な活動内容となる「大滝的自然活動構想」を発表した。この構想では、①アウトドア活動、②エコ村づくり、③文化創造活動の3本柱を掲げ、具体的な事業として、自然観察トレッキングやホーストレッキング、カヌー川下り、沢登り、マウンテンバイク、ノルディックウォーキング、ツリーハウスづくり、犬ぞり、山スキー、スノーモービルツアーなどの体験メニューを想定。本年4月からNPO法人となった大滝村観光協会と連携しながら、長期的視野に立ちながら、ひとつひとつその実現化に向けて活動している。

「ツリーハウス村づくり」から得たもの

大滝冒険倶楽部は、豊かな自然を活かし、市民も参加できる、次のような活動を実践している。

①自然体験活動におけるガイド、②村の使っていない土地などを遊びの研究場所として有効利用できるように企画開発・商品化、③大滝村に馬を生活の一部として復活、④大滝村の自然を保全するための大滝レンジャーの結成、⑤大滝村を知る人ぞ

知るマニアックな遊びの場にする活動。

その活動の一事例として、'03年の「ツリーハウス村づくり」の体験を吉居さんは語ってくれた。

「子どもの頃によくドングリの木の上に基地を作って遊びました。夕方、暗くなるまで仲間と遊び、よく親に叱られたのを覚えています。最近の子どもたちはそういう遊びをしているのだろうか。今思うと自然との触れ合いは、そういった子ども時代の遊びから始まっているような気がします。そんな思いから、人々が自然とひとつになるきっかけをつくる道具としてツリーハウス村づくりを考えました。大滝村の豊富な森林資源を活かし、親子を中心にしたツリーハウス造作体験の機会を作る。週末ごとに少しずつ、家族や仲間たちと一緒に作っていくツリーハウス村は、その一帯が空中回廊でつながる独特な空間となり、自然との共存というテーマの入口になります。多くの子どもたち、そして自然との触れ合いを忘れかけている大人たちに対して、大滝村の自然を素材にした触れ合いの機会を提供したいと考えました」。試行錯誤の中で木に負担をかけないツリーハウスづくりのノウハウも蓄積されたといいます。それ以外にもツリーハウスの裏を流れる川を利用した川下りや沢歩き体験を行い、延べ160名が参加した。

吉居さんは「参加者は自然と接することで、



今年、完成を目指して作成中の2棟目のツリーハウス

きれいな川や森のすばらしさに感動します。その中の数人でもいいから、きれいな川を維持するためにはそれでは何ができるのかという問題意識が芽生えてくれて、それが日常生活の中で洗剤の使用量を減らすなどといったことにつながるかも知れません。このように自然を体験した思い出がきっかけになり、環境を考えるきっかけになってくれればいいと思います。私自身は好きな遊びのフィールドづくりをしているのですが、そのことで結果的に参加者と一緒に感動を共有することができます。また、参加者の皆さんにはすてきな思い出として大滝村の自然体験を持ち帰ってもらえます」「この体験を通じて、自然との触れ合いを忘れかけている大人たちが、普段と違う目線を持って自然の中に入ることで、子どもの頃の懐かしい思い出や新たな世界を見出してくれればいい」と熱く語ってくれました。

新世代ケーブルテレビで暮らしが変わる

山あいにある大滝村は地上波難聴地域で、既存の共聴施設は老朽化し、クリアな映像や音声で視聴することが難しく、もちろん共聴施設以外の地域ではさらに困難な状態にあった。このため、大滝村は‘03年に総務省の「新世代地域ケーブルテレビ施設整備事業」の適用を受けて「大滝村ケーブルテレビ事業」を実施、今年4月1日に開局した。これにより、大滝村は多チャンネルテレビ放送と高速インターネット接続環境を手に入れた。

このケーブルテレビでは、地上波放送7局、BSデジタル放送3局、CS放送10局、FM音声放送2局のほか、2チャンネルの自主放送を行っている。そのうち1チャンネルは大滝村独自の番組を制作・放送するコミュニティチャンネルである。

コミュニティチャンネルでは、村内の出来事や役場からのお知らせ、小中学校の運動会、各地区の祭礼、各種イベントなどの村内行事、村民参加の特番などが制作、毎日放送され、大滝村の生活を便利で話題豊かなものにしていく。吉居さんは番組の制作・放送に加え、



大滝冒険倶楽部 代表 吉居 大輔氏

自ら村の資産にスポットをあて、キャスターとして村民に地元の魅力を伝達している。

また、このケーブルテレビの整備で高速インターネット環境が整い、豊かな自然環境の中で仕事をしたいというベンチャー企業の誘致や村民が直接日本中世界中に情報を受発信していくことで、新たなビジネスチャンスを生み出すなど、村の産業や暮らしに大きな変化をもたらす力となると期待されている。

「大滝村の魅力に魅かれた私たちの活動やケーブルテレビをうまく活かした情報発信により、村民自身が自分たちの土地の歴史や文化・自然環境などの資産を再認識することにつながった。大滝村は小規模な村であることが却って良い条件となって、このような取組が成功したのだと思います。これからは国内で有数の新世代地域ケーブルテレビ先進地として注目を浴びることになりますが、これからも村民と連携していくことで、持っている資産に付加価値をつけて新たな発想を生み出し、長期的視野に立って継続的に地域が発展していくことを期待したいのです」といいます。

北海道の恵まれた資源であるスケールの大きな自然の魅力を、多くの人々に楽しんでもらいつつ、次の世代によりよい形で引き継いでいくためには、自然を保全しながら、人間はどのように自然と共存できるかをテーマとしたコミュニティづくりや自然活動を展開する大滝冒険倶楽部の実践がそのヒントになるはずである。